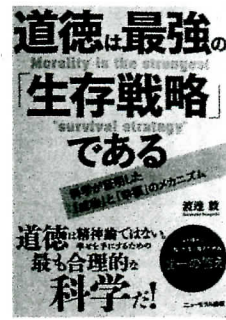


会員出版図書紹介①

道徳は「最強の生存戦略」である

科学が証明した「成功」と「幸福」のメカニズム



著者 元皇學館大学教育学部教授 渡邊 毅
A5判 三九八頁
発行 ニューモラル出版
定価 二,二〇〇円(税込)

渡邊会長は、長年の間、道徳教育の研究に携わり、人物伝教材やその指導法の開発などを手がけている。この書は、そうした研究から得られた道徳の必要性、その修得の在り方などの知見を、国内外の膨大な心理学、脳科学の成果を引用しながら、裏付けしている。それは本書の前半の三章で理論的に記述され、後半三章で内外の偉人・賢人を例に、より具体的に説いている。

会長の人間理解の基本にあるのが、「道徳性は生得的なもの」という見方であるが、第三章「道徳的な心、悪徳に厳格な心」で説明している。

まず、近年の研究で多くの動物種に共感、感謝、協力といった道徳的行動が見られることが示されており、さらに人は二歳未満の乳幼児でも、他者を助ける行動に喜びを得ることが観察されているなど、道徳心は生得的ものであることを示

唆している。

この指摘は人の可能性を信ずるために重要な点である。孟子の性善説が裏付けられているとまでは言及してないが、その可能性を感じさせるものがあり、はつとする。

この書の趣旨は「道徳は人の生存戦略である」ということである。人間の行動や感情の多くは長い進化の過程で自然選択によって形成されたという。中でも利他的行動は個体の利益に反するようだが、集団の存続や繁栄に寄与し、ひいては個体の遺伝子を次世代に残す可能性が高まるのである。

そこから導かれるのが、「人間は、本性として倫理的可能性を宿した存在」であり、それを自覚し成長させることで、「個人の成熟と同時に共同体(家庭、学校、会社、地域社会、国家)の持続的調和と繁栄を実現できる」という結論である。

会長は、道徳が人格形成に寄与するのみならず、社会の安定の基盤になるという。そして、昨今のAIの急速な進化や地球環境の変動など激動する環境下で生き延びるためには、「人間とは何か」「どう生きるか」という本質的な問いを見つめることが必要だとする。

本書は従来の道徳の概念を一新するものがあり、道徳教育に携わる教師にとって、心強い指導理念を与えてくれ、一読を勧めたい。また、一般の人にとっては所属する組織の一人として心の安定を図り、その中で充実した活動を展開するヒントが与えられるであろう。

会員出版図書紹介②

神代から現代へ連綿と続く「日本の本質」の再発見
國體とは何か



著者 元駒場東邦中高教頭 佐藤健二
A5判 二九五頁
発行 方丈社
定価 一、八〇〇円（＋税）

「國體」という言葉は、現在、ほとんど使われていない。ただ「国体」は戦後始まった国民体育大会の略として長らく使われてきた（二年前からは「国民スポーツ大会」国スポ）。

「国体」の本来の意味は、辞書に「くにがら」で「主権または統治権の所在により区別した国家体制」とある。これは国民が心得るべき概念であるが、学校教育では教えていない。

日本の「国体」から天皇のご存在は切り離せないが、学習指導要領では、日本国憲法の定める「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」を社会（国）の特徴であるとの理解の上に「日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について」理解させる、とだけある。従って、なぜ日本国憲法の第一章に天皇の条項があるのか、という根本的な問題に対する説明はされない。そのため、国民は日本の「国体」を真に理解し、説明できないのである。

著者佐藤副会長は、こうした現状を憂い、自身が長年にわたり山鹿素行著『中朝事実』を研究した結果、「国体」の真の姿を把握され、それを若い人たちに伝えようとしている。

第一部は山鹿素行の紹介と『中朝事実』の全十三章の解説である。その序章で素行がこの書を書くに至った理由が説明され、「皇統（天皇を中心とした皇室の歴史）」が主題であるとしている。それは『日本書紀』の神代の物語の中に描かれており、全章にわたってポイントになる文章を引用しながら、若い人にも理解しやすい言葉に置き換え、紹介している。

第二部は「近代における國體思想の変遷」で、近代は「國體」の考えを中心に展開されたとして、國體の語を最初に採用した會澤正志斎を紹介している。素行の時代から百五十年の時間を経ているが、両者とも神代の物語に日本の本質を見ているところで共通している。ただ正志斎は「国防」を論ずるための「國體」であった。

吉田松陰は會澤正志斎の指摘で「國體」に目覚め、急ぎ歴史書を読破し、塾生たちに教えたのである。日本の真の姿を知った志士たちは、明治維新を成し遂げ、今日の日本の礎を築いていった。

現在、我が国は幕末に匹敵する国難にあると言ってよい。それを打開する力は、先人が明らかにした「國體」に目覚めることにある。この書により若い人も「國體」が何であるかを教わり、日本人としての魂を呼び覚まされるであらう。H